

1. 第23期（平成29年度）事業報告

（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

事業活動に関する全体報告

第23期（平成29年度）は公益財団法人に移行して4年目となりました。南魚沼市との間では、美術館の管理運営に関する協定書（期間は、平成26年4月1日から平成36年3月31日まで）に基づいて年度協定書を交わし、管理運営の補助金として年間600万円の指定管理料が支払われました。芸術・文学・スポーツの分野を中心に、今後とも南魚沼市と連携・協力していく所存です。

毎年度募集している「環日本海沿岸諸国との国際交流援助事業」については応募がなく、実施できませんでした。また、「国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業」は隔年事業のため、今期は募集しませんでした。

展覧会部門は事業計画にあった10回の企画展覧会を予定通り開催しました。また、前年度大好評だった「錯覚展」開催の要望を受けて冬季特別展示として急遽「錯覚展2017-18」を追加しました。以下、主な展覧会とイベントについて説明いたします。

今期は大規模な企画展を二つ開催しました。

一つは「八色の森の美術展＋八色の森の子ども絵画展2017」です。全国各地から集まった28人の現代作家の作品約100点と、地元の小学生・総合支援学校の子どもたちから応募のあった抽象絵画200点以上の作品を対等・平等に展示するという画期的な美術展として注目されました。この企画展は新潟県文化振興財団の助成事業に採択されました。

もう一つは「日本の写真史に名を刻んだ101人展」です。富士フイルム株式会社が所蔵する著名写真家101人の代表作を各1点展示しました。新潟県内では初開催。今期で7回目を迎えた「魚沼ベストショット展」との同時開催としました。

県内在住の著名作家を紹介する展覧会として、桑原収氏・猪爪彦一氏（絵画）、関根哲男氏（現代美術）、玉川勝之氏（金属造形）の個展を開催しました。また、はり絵作家で聴覚・知的障害がある岡田清和氏の個展を妙高市教育委員会の協力で魚沼地域で初めて開催しました。

地域の交流と文化活動を促進するための企画として、「八海山夢展」「南魚沼郡市児童生徒美術展」「魚沼ベストショット展」を開催しました。

冬季特別展示として、明治大学特任教授の杉原厚吉先生が制作した錯視立体を展示した「錯覚展2017-18」を追加開催しました。

1月に開催した「第4回雪見展」は2日間で2,138人の来館者でした。

また、3月4日には「錯覚展」の関連イベントとして、前年に引き続き、八海山麓スキー場を会場に、地元住民の協力を得て雪で錯覚すべり台を作り、大好評でした（タテ・ヨコ10^m四方）。本事業には南魚沼市からの補助金がありました。

スポーツ関係部門では、巨人で活躍した鈴木尚広氏による講演会や、各種スポーツカードの展示のほか、協賛事業として「上越沿線少年親善野球大会」「南魚沼グルメマラソン」などに参加しました。

収益事業としては「売店収入」「喫茶収入」「スポーツカードショー収入」がありますが、年3回（春・秋・冬）開催されたカードショーには県外からも多数の参加者がありました。

以下は、過去5年間の入館者数、有料入館者数です。

	入館者（人）	有料入館者数（人）
19期（H25年度）	16,556	7,806
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905

次に、過去5年間の事業収益の内容です。

	入館料	企画事業 収入	カード ショー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	合計（円）
19期	3,677,800	2,374,488	987,180	2,081,002	1,283,461		10,403,931
20期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938		15,857,689
21期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161		15,270,527
22期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829		12,206,440
23期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996	8,866,627

第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加しています。また、第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と文化庁からの企画展助成金（333万円）があったため企画事業収入が増加しています。第22期は「錯覚展」が新聞各紙やテレビに大きく取り上げられた結果、冬場の来館者数・入館料が大幅に増加しました。

第23期（平成29年度）は前期と比較して、冬期間（平成30年1月～3月）の入館者数が2,960人減少（前期8,970人→今期6,010人）、同じく入館料が792,400円減少（前期2,004,000

円→今期 1,211,600 円) しました。前期は「錯覚展」開始早々にテレビ 2 社で大きく紹介されたことにより客足が大きく伸びたのですが、今期はテレビでの紹介が 3 月になったことと、また、1 月と 2 月の豪雪・悪天候のため、来館者数が減ったものと思われます。また、売店収入の減少は、小品を販売する企画展が「八海山夢展」と「玉川勝之展」だけだった理由によるものです。

平成 28 年 4 月から発行している年間パスポート (3,000 円) の会員数は 120 人となっています。なお、平成 30 年度から新たに法人パスポート (一口 10,000 円) を発行し入館料の増加に繋がりたいと思います。また、同じく平成 30 年度から、喫茶収入を増やすためドリンクチケット (5 杯 1,000 円) を販売します。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業につき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

今期は応募がなかったため実施できませんでしたが、引き続き、ホームページや「イケビふれあい通信」などを使って募集に努めます。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

隔年 (偶数年) 開催事業のため、今期の募集はありませんでした。

3、美術館事業

1) 展覧会

① 桑原収展－私の原点・半生の記録－

■会期：4 月 9 日 (日) ～4 月 30 日 (日) 19 日間 658 人

南魚沼市在住の画家・桑原収氏の個展。一陽会会員、南魚美術協会顧問、当館アドバイザースタッフ。南魚展や一陽会展などを中心に作品を発表、魚沼の美術界で中心的な役割を果たしてきた桑原氏の画業を紹介しました。抽象画を中心に、学生時代のデッサン、過去の具象画シリーズなど、合計で 66 点を展示。画業の集大成となる展覧会になりました。ギャラリートークも開催、36 名の参加がありました。また、会期中に花祭り交歓会を開催しました。

② 関根哲男展－原生 物と生命の営為そのものへー

■会期：5 月 3 日 (水・祝) ～6 月 12 日 (月) 36 日間 1,294 人

柏崎市在住の現代美術家・関根哲男氏の個展。大地の芸術祭 (妻有地域) や水と土の芸術祭 (新潟市) に出展した作品が高い評価を得て、注目を集める作家です。物と生命の営みそのものを作品として表現した「原生」というタイトルで、平面作品と立体作品、あわせて 28 点を展示しました。2 回のギャラリートークでは合計 40 人の参加がありました。

③ 猪爪彦一展—かぐわしき風のなかで—

■会期：6月17日（土）～7月18日（火） 28日間 1,219人

新潟市在住の画家・猪爪彦一氏の個展。行動美術協会会員、新潟県美術家連盟理事。1981年、行動美術展・行動美術賞受賞。1984年、安田火災美術財団奨励賞展で新作優秀賞を受賞。行動美術展に出品するほか、個展を中心に活動する新潟県を代表する画家です。行動美術展に出展した大作を中心に詩的で幻想的な作品32点を展示。ギャラリートーク（参加者34人）と美術講座「猪爪彦一先生と描く～音楽と絵画～」（参加者10人）を開催しました。

④ 第18回 八海山夢展

■会期：7月22日（土）～8月28日（月） 33日間 2,422人

地元美術愛好家を中心に、絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で作品を展示、18回目となる展覧会です。今回は、110人125点の作品を展示しました。出展者との交流を図るイベント“美のツボ”を企画、うちわ作りやモデル撮影会など、子どもから大人まで初心者でも上級者でも楽しめるイベントを開催しました（計4回、55人参加）。主催は八海山夢展実行委員会。南魚沼市内の企業3社から協賛金を得て印刷物を作成しました。

⑤ 玉川勝之展—負の振れ幅を大切に—

■会期：9月2日（土）～10月3日（火） 28日間 810人

金属造形作家・玉川勝之氏の個展。伝統工芸を受け継ぐ工芸家として活躍しながら、その技術を生かしてオリジナルなアートを制作している作家です。伝統工芸と現代アートが融合された、銅を素材にしたレリーフや立体作品を中心に展示しました。ユーモアとエロスを交えた作品からは生命のエネルギーが感じられました。会期中には、玉川氏制作の楽器（銅鑼）を使った即興ライブ「パーカッションと現代舞踏のステージ」を開催しました（参加者42人）。

⑥ 八色の森の美術展+八色の森の子ども絵画展2017—未来に繋ぐ絵画考—

■会期：10月8日（日）～11月21日（火） 39日間 2,444人

全国から28人の現代作家が参加して約100点の作品を出品し、併せて地元の小学生・総合支援学校の子どもの抽象絵画200点以上を館内いたるところに展示しました。プロと子どもたちの作品を対等・平等に扱った画期的な展示方法は新潟日報文化欄でも高く評価されました。期間中、美術評論家・谷川渥氏の基調講演会（参加者48人）、新潟市美術館館長・塩田純一氏の特別講演会（参加者26人）、出品者・吉田恭氏の文化講座（参加者48人）、出品者・結城ななせ氏のワークショップ（参加者40人）、地元小学校・総合支援学校の先生を交えたトークイベント（参加者41人）など多彩なイベントを開催しました。また、6月～7月にかけて計4日間、南魚沼市内の小学校3校、総合支援学校小学部が参加して、出品作家・結城ななせ氏による出前授業を開催しました。

⑦ はり絵作家 岡田清和展

■会期：11月25日（土）～12月24日（日） 26日間 956人

妙高市在住のはり絵作家・岡田清和氏の個展。聴覚障害、知的障害がありながら、抜群の色彩感覚で生み出されるはり絵は見る者の心をつかみ、道徳の教科書にも取り上げられ、原田泰司美術館ほか各地で個展が開催されています。今回の展覧会では、はり絵作家岡田清和氏を支援する会の協力を得て、平成6年ごろの初期のはり絵から近作まで69点を展示。展示作品は市内の小中学校の児童生徒にアンケートを募って選定しました。岡田氏が来館し、はり絵の実演会も行いました（参加者47人）。また、期間中に、当館アドバイザーの長谷部昇氏による美術講座「ラグーザ・お玉の世界」を開催しました（参加者13人）。

⑧ 第62回 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月6日（土）～1月16日（火） 10日間 3,053人

南魚沼市及び湯沢町の児童生徒の作品約500点が展示されました。子どもたちの創作意欲が「いきいき」と伝わってくる展覧会となりました。作品解説会も開催（参加者20人）。期間中は南魚沼市・湯沢町の協力で入館無料としました（市と町から入館料の補助あり）。また、期間

中の2日間（7～8日）、恒例の「雪見展」を開催し2,138人の来館者がありました。

⑨ 交差する写真展① 日本の写真史に名を刻んだ101人展

■会期：1月20日（土）～3月27日（火） 58日 2,957人

日本の写真史150年の中で特に重要な写真家101人を選出し、各写真家の代表作1点をまとめたフジフィルム・フォトコレクション展です。新潟県内で初の開催となる写真展。魚沼ベストショット展との同時開催となり、地元写真家の作品と歴史的な写真家の作品を同時に展示することで、普段はあまり交わらない二者が、美術館という同じく空間で同じく時間を共有することができました。県内各地から写真家や写真愛好家が多数来館してくれました。期間中、富士フィルム株式会社宣伝部の山本佳之氏による作品解説会（参加者69人）、南魚美術協会会長・田辺千勝氏の作品解説会（参加者37人）のほか、写真家・土田ヒロミ氏の記念講演会（参加者38人）を開催しました。

⑩ 交差する写真展② 魚沼ベストショット展 Part VII

■会期：1月20日（土）～3月27日（火） 58日 2,957人

県内外の写真家40人と小千谷西高校写真部員8人が、魚沼地域の変化に富んだ美しい自然一風景や暮らしなどを撮影した自慢のベストショットを出品。7回目の開催ですが、今回は「交差する写真展」と題し、「日本の写真史に名を刻んだ101人展」と同時開催となりました。より広く魚沼からのメッセージを発信することを目指しました。期間中、初心者向け写真教室を開催しました（参加者25人）。

⑪ 冬季特別展示 錯覚展 2017-18ー不可能立体の不条理世界 Part2ー

■会期：12月4日（土）～3月27日（火） 74日 6,742人

前年度に開催して大好評だった「錯覚展」を冬季特別展示として開催しました。明治大学特任教授の杉原厚吉先生の新作と未公開作品を展示。3月4日には関連イベントとして八海山麓スキー場において「雪の錯覚すべり台」を公開し、朝日新聞HPの動画でしばらく上位ランキングされました（このイベントには南魚沼市からの補助金がありました）。

2) スポーツ関係展覧会

多目的ホールで野球、相撲関連のスポーツカードを展示しました。

① 「2016 ベースボールカード」の展示

■会期：4月～11月

2016年の「ベースボールカード タイムトラベル 1975」や「2017 ルーキーエディション」「2016 FUSION」「2016 MASTERPIECE」「2016 ベースボールカード 2ndバージョン」を展示しました。

② 「大相撲カード」の展示

■会期：4月～11月

「97 相撲錦絵カード」を展示しました。

※12月以降は多目的ホールを企画展で使用したため展示しませんでした。

4、スポーツ協賛事業

地域のスポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会参加等の形で地域のスポーツ交流の促進に貢献しました。

① 第68回ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2017年5月27日（土）～28日（日）

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場、青島野球場、小出中学校

記念講演会：27日18:00～20:00 元巨人軍・鈴木尚広氏の講演と実技指導

② 第13回さわやかジョギング大会

日時：2017年6月4日（日）9:00～11:30

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 第8回南魚沼グルメマラソン

日時：2017年6月11日（日）8:30～17:00 前夜祭：10日（土）は天候不良のため中止

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

※実行委員会に1名参加、出展業者として物販にも参加

④ 第10回八色の森健康ウォーキング

日時：2017年9月23日（土・祝） 9:00～12:30

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

※運営役員として2名参加

5、収益事業

1) 売店収入

企画展、ワークショップなどとも連動し、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどをショップに飾り、売上アップを図りました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピール。最近、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられます。2011年以降、ジェラート、抹茶、冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び起こしてきましたが、今後とも企画展に連動してドリンクチケットを販売するなど、売上増を図ります。

3) スポーツカードショー収入

スポーツカードの展示と連動しながら、スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を

促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指し収益を拡大しています。今後もエントランスホールで実施します。

①BBM スポーツカードショー2017 春の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2017年4月1日(土) 9:00~16:00 59名参加

②BBM スポーツカードショー2017 秋の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2017年11月18日(土) 10:00~16:00 50名参加

③BBM スポーツカードショー2017 冬の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2018年1月27日(土) 11:00~15:00 30名参加

4) 委託販売手数料収入

収益事業として「南魚沼産コシヒカリ」の販売に積極的に取り組んでいきます。

6、その他

① 一箱古本市@池田記念美術館

■会期：6月1日(木)~6月12日(月)

■会期：1月6日(土)~16日(日)

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。夏と冬に開催しました。出店者の個性が光り、本を介して出店者同士や来館者とのコミュニケーションが生まれます。会期中さまざまなイベントを開催、一箱古本市の文房具版「文具一机市」、「手作りノートのワークショップ」、一箱古本市の発起人である南陀楼綾繁氏を講師に迎えた企画「伝える道具、フリーペーパーの設計図をつくるワークショップ」(夏)、「ワークショップ・ブックカバーでバックをつくろう」(冬)など、様々な企画を通して本に関わる文化の魅力を発信しました。

② 雪見展

■会期 1月7日(日)~8日(月・祝日) 参加者数：2,138人(2日間)

真冬のクラフトマーケット。地元で手作りの雑貨や食品をつくっているショップや個人が集まり、自慢の一品を販売するイベント。手作り品のワークショップ、リラクゼーションコーナー、デッサンコーナーなどもあり、美術館の枠を超えて、子どもから大人まで多数の参加がありました。